

葉山町リユースモデル事業 報告書

1. 事業の概要

リユース体験型イベントによる普及啓発促進事業「くるくる市」を開催した。町民にリユース可能な製品を持ち込んでいただき、欲しい品を無料で持ち帰ってもらった。民間リユース事業者とも連携し、残った製品等も可能な限りリユースを行った。

「くるくる市」は、12月15日(日)(於：図書館ホール)、1月19日(日)(於：図書館ホール)、2月9日(日)(於：福祉文化会館 大会議室)の計3回開催した。

事業の概要

日時	取組内容
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動(町の広報、ちらし配布(1回目:町内会回覧、町内掲示板(55箇所)各戸配布、公共施設・スーパー・銀行等で配布)、町ウェブサイトでの案内) ・ 資材準備、リユース事業者等との調整などの事前準備
12月15日(日) 第1回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回くるくる市を図書館ホールにて開催。10時～15時。 ・ 持ち込み、持ち帰り品の計量、来場者アンケートの実施
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動(ちらし配布(2回目)、町ウェブサイトでの継続案内) ・ 第1回の開催状況を踏まえて、対象品目等の見直し、ちらしの修正
1月19日(日) 第2回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回くるくる市を図書館ホールにて開催。10時～15時。 ・ 持ち込み、持ち帰り品の計量、来場者アンケートの実施
2月9日(日) 第3回開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回くるくる市を福祉会館 大会議室にて開催。10時～15時。 ・ 持ち込み、持ち帰り品の計量、来場者アンケートの実施
効果測定・成果とりまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来場者アンケートの集計 ・ 参加者への追跡アンケートの実施、集計 ・ 一般町民向けアンケートの実施、集計

1.1 対象品目

本事業は、「衣類、服飾雑貨」、「本」、「CD、DVD、ビデオ」、「食器」、「バッグ」、「靴」、「ぬいぐるみ」、「おもちゃ」、「その他日用品」を対象品目として実施した。粗大ごみ、家電リサイクル法対象品目(冷蔵庫・冷凍庫、テレビ、洗濯機・衣類乾燥機、エアコン)、電気を使用するもの(アイロン、ドライヤーなどの小型家電)は対象外とした。

なお、持ち込み禁止品についてもリユースを希望する場合には、町が運営する不用品交換掲示板「葉山リサイクル掲示板」の登録を会場にて受け付けた。

「くるくる市」で対象としたリユース品

品目	詳細説明
衣類、服飾雑貨	洗濯済みのもの。毛玉等はできるだけとること。 服飾雑貨 = マフラー、帽子、ネクタイ、ベルト
本	落丁していないもの。ほこり等はできるだけとること。
CD、DVD、ビデオ	著作権侵害にならないもの。個人編集、録音、録画したものは不可×
食器	割れていないもの。
バッグ	スーツケースや1辺 50cm 以上のものは粗大ごみのため持ち込み不可×
靴	靴底がはがれていないこと。
ぬいぐるみ	目立つ汚れがないもの。1辺 50cm 以上のものは粗大ごみのため持ち込み不可×
おもちゃ	1辺 50cm 以上のものは粗大ごみのため持ち込み不可×
その他日用品	衛生管理上支障あるものは不可×（トイレ・お風呂用品など）

1.2 取組の概要

(1) イベント当日のフロー

町民が持ち込んだ不用品は、会場入口付近に持ち込み用受付を設置し、対象品目以外のものが混入していないかを簡単に確認したうえで、品目とその重量を計測し、持ち込み者用アンケートの記入を依頼した。

また、対象品目以外の不用品については、会場内にて「ゆずります」「ゆずってください」の情報を登録できる「葉山リサイクル掲示板」の登録できるようにした。

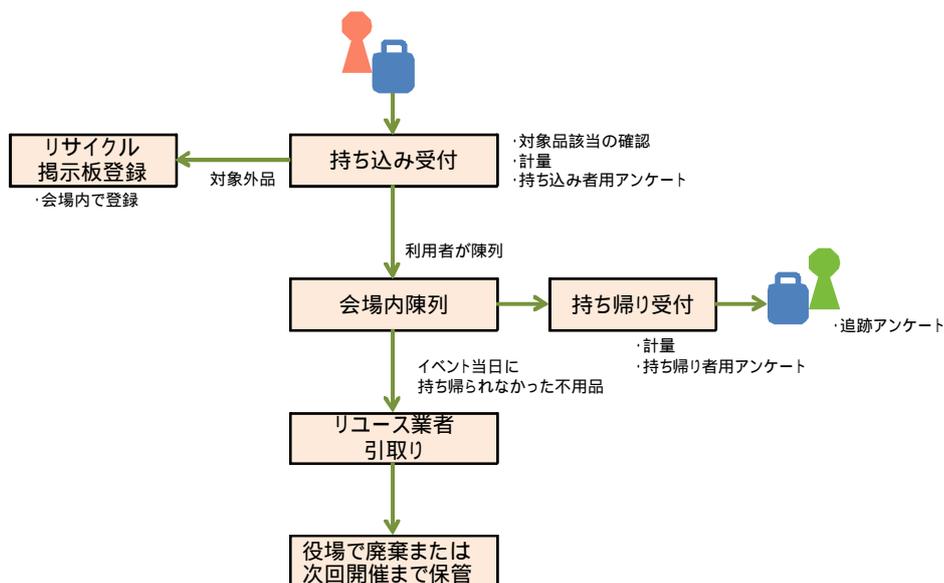
イベント当日におけるリサイクル掲示板登録件数（1～3回合計）= 20件（うち13件成立済み）受付後は、おおまかに品目ごとに指定された陳列場所へ各自が陳列した。

持ち帰りの希望者には、持ち帰り用受付を設置し、持ち込み用受付と同様に品目及び重量を計測し、持ち帰り者用アンケートの記入を依頼した。

イベント終了時に持ち帰られなかった不用品のうち、リユース可能なものについてはリユース事業者が引き取り、最終的に残ったものについては、葉山町役場にて次回開催までの保管または適正処理を行った。

受付にて対象品の確認を行なったことで、最終的にごみとなりそうなものを事前に排除することができた。

イベント当日のフロー



(2) 事業の効果測定

当日の会場内にて持ち込み品及び持ち帰り品の品目ごとの計量、アンケートを実施した他、不用品を持ち帰った町民に対して、同意を得て追跡調査アンケートを実施し、利用状況等を確認した。

1.3 役割分担

葉山町は「くるくる市」の主催者として、開催に向けた企画・準備・当日運営・効果測定等を行った。市民団体「ゼロ・ウェイストを考え、進める会」、「ごみへらし隊」はリユース品の受付、仕分け整頓、当日の会場運営の支援を、リユース事業者は残った衣類等の引き取り等を行った。

1.4 広報・PRの方法

イベント第1回の前後にちらし作成を行い、合計で32,700枚発行した。全戸配布(2回)町の広報紙・ホームページでの案内、ボランティアスタッフによるスーパー前での配布、町内会回覧・掲示板、各公共施設その他銀行・郵便局などにおいて配布などを実施した。

< チラシ作成・配布 >

・作成枚数

12月実施分：16,150枚（カラー印刷）

1・2月実施分：16,550枚（カラー印刷）

・配布方法

全戸配布(2回)

町内会・自治会回覧(2回)

町内主要施設への設置(役場、福祉文化会館、図書館、銀行・郵便局(4箇所))

町内主要施設での配布(スーパー・児童館・役場前(8回))

環境イベントでの配布(資源物拠点回収“土よう広場”(10回))

掲示板への掲示(町内掲示板(55箇所)、スーパー(3箇所)、保育園・幼稚園(2箇所))

< 広報 >

・葉山町ホームページ

・「広報はやま」2回(カラー1ページ)

・地域新聞“タウンニュース”

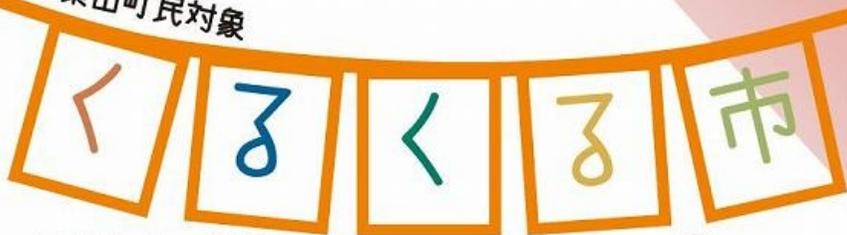
・業者によるプレスリリース(1件)

ちらし(第1段)



「もう使わないけど、捨てるにはもったいない…」
 「欲しいんだけど、誰かゆずってくれないかなあ…」
 そんな方はぜひお越し下さい!

葉山町民対象



開催日時・場所

- 第1回：12月15日(日)10:00~15:00@図書館ホール
- 第2回：1月19日(日)10:00~15:00@図書館ホール
- 第3回：2月9日(日)10:00~15:00@福祉文化会館 大会議室



Reuse(リユース)とは?

形を変えずにそのまま再使用するが「リユース」です。まだ使えるものを再使用する事で、「ゴミを出さない・増やさない」ことが目的です。
 くくる市は、ご家庭で使わなくなった衣類、書籍、食器などを町内で「くくる市」循環させ、リユースを進めるためのイベントです。
 くくる市で「リユースでエコな暮らし」始めてみませんか?
 ※当日は葉山リサイクル掲示板の登録・閲覧もできます。
 ※粗大ごみ、家電4品目(冷蔵庫・冷凍庫、テレビ、洗濯機・衣類乾燥機、エアコン)、電気を使用するもの(アイロン、ドライヤー、コーヒーメーカーなどの小型家電)は受け付けられません。

◆◆お持込みいただきたいもの◆◆



持込み品基本原則

- ①使用可能なもの
- ②破損・汚れ等はないもの

※粗大ごみ、家電4品目(冷蔵庫・冷凍庫、テレビ、洗濯機・衣類乾燥機、エアコン)、電気を使用するもの(アイロン、ドライヤー、コーヒーメーカーなどの小型家電)は受け付けられません。
 ※上記の他に受け付けられない場合もありますので、ご了承ください。
 ※お持込みいただいたものが残った場合、持ち帰りの必要はありません。



品目	※注意事項※
衣類	洗濯済みのもの。毛玉等はできるだけとること。
本	落丁していないもの。ほこり等はできるだけとること。
食器	割れていないもの。
バッグ	スーツケースや1辺50cm以上のものは粗大ごみのため持込み不可×
靴	靴底がはがれていないこと。
ぬいぐるみ	目立つ汚れがないもの。1辺50cm以上のものは粗大ごみのため持込み不可×
おもちゃ	1辺50cm以上のものは粗大ごみのため持込み不可×
その他日用品	衛生管理上支障あるものは不可×(トイレ・お風呂用品など)

◆◆お持ち帰りについて◆◆

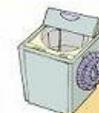
- ◆無料でお持ち帰り頂けます。
- ◆マイバッグ持参にご協力お願いします。



◆◆当日は葉山リサイクル掲示板の登録・閲覧も出来ます◆◆

当日持込み出来ない品(粗大ごみや小型家電)についてもゆずりたい・ゆずってほしいという方は、「ゆずります」「ゆずってください」の情報を登録出来る葉山リサイクル掲示板をご利用ください。

※リサイクル掲示板にも登録できない品があります。
 詳しくは町HPにて。http://www.town.hayama.lg.jp/recycle/



~ご協力お願いします~

ご来場のみならずには、環境省モデル事業効果測定のため、アンケート記入に協力して頂きます。



主催：葉山町
 協力：ごみへらし隊
 ゼロ・ウェイストを考え・進める会
 問合せ：葉山町環境課
 TEL：046-876-1111(内線453)

2. モデル事業の実施状況

2.1 参加者数

来場者数は第1回が400人、第2回が450人、第3回が50人であった。第3回は開催日の前日が大雪であったために来場者数が少なかったと考えられる。

～ くるくる市の利用状況実績 ～

	天候	来場者数	持ち込み		持ち帰り	
			人数	重量(kg)	人数	重量(kg)
第1回 (平成25年12月15日)	晴れ	400	221	1,896	230	1,333
第2回 (平成26年1月19日)	晴れ	450	228	1,534	279	968
第3回 (平成26年2月9日)	晴れ 前日:大雪	50	22	150	42	199

2.2 当日の様子



持ち込み・持ち帰り受付の様子



会場の様子



リサイクル掲示板登録・閲覧の様子



食器



衣類



衣類



靴・バッグなど



子ども用品 (おもちゃ・ぬいぐるみ)

3. モデル事業の効果

イベント当日は、持ち込み、持ち帰りそれぞれの利用者に対して、品目ごとの計量及びアンケートを行い、モデル事業の効果を測定した。

3.1 リユースの実績

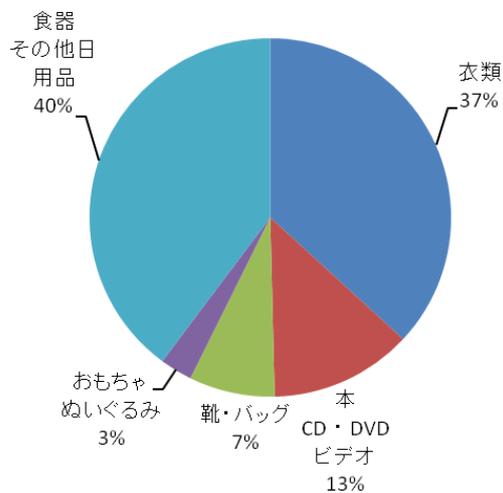
(1) 町民によるリユース品の持ち込み及び持ち帰り状況

計量は、「衣類」、「本・CD・DVD・ビデオ」、「靴・バッグ」、「おもちゃ・ぬいぐるみ」、「食器・その他日用品」の5つに分類して行った。

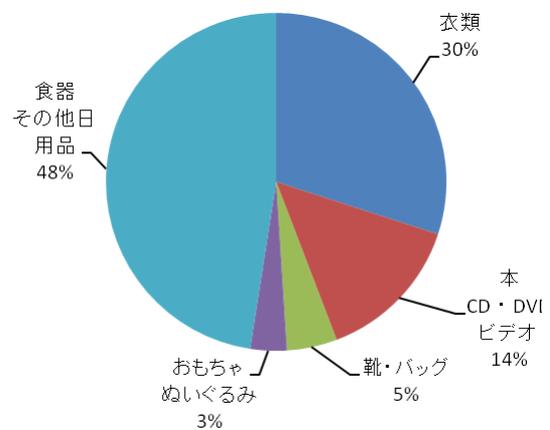
持ち込まれた品目は、各回とも重量ベースで「食器・その他の日用品」が40%、「衣類」が37%と大半を占めた。次いで、「本・CD・DVD・ビデオ」が13%、「靴・バッグ」が7%、「おもちゃ・ぬいぐるみ」が3%であった。

持ち帰られた品目は、「食器・その他日用品」が48%、「衣類」が30%と持ち込みと同様に大半を占めた。次いで、「本・CD・DVD・ビデオ」が14%、「靴・バッグ」が5%、「おもちゃ・ぬいぐるみ」が3%であった。

持ち込み品目の内訳（3回合計）



持ち帰り品目の内訳（3回合計）



持ち帰り率で見ると、3回の合計で「おもちゃ・ぬいぐるみ」と「食器・その他日用品」が83%、「本・CD・DVD・ビデオ」が78%と高い割合であった。最も低い割合であった「靴・バッグ」でも43%が持ち帰られており、今回のイベントを通して多くの不用品リユースされたことがわかる。

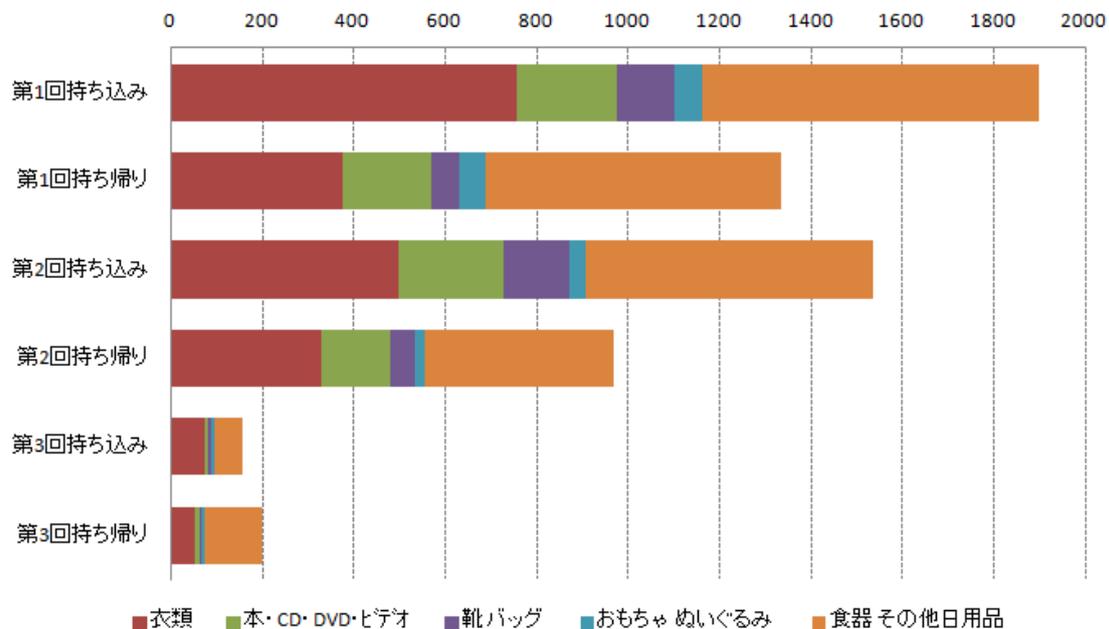
第1回から第3回までのリユースの実績

単位：kg

品目	第1回			第2回		
	持ち込み	持ち帰り	持ち帰り率	持ち込み	持ち帰り	持ち帰り率
衣類	754	375	50%	495	327	66%
本・CD・DVD・ビデオ	221	193	88%	232	151	65%
靴・バッグ	124	62	50%	143	53	37%
おもちゃ・ぬいぐるみ	60	58	96%	37	22	60%
食器・その他日用品	737	644	87%	628	416	66%
合計	1896	1333	70%	1534	968	63%
品目	第3回			合計		
	持ち込み	持ち帰り	持ち帰り率	持ち込み	持ち帰り	持ち帰り率
衣類	74	49	66%	1,322	750	57%
本・CD・DVD・ビデオ	4	11	280%	457	355	78%
靴・バッグ	8	4	53%	275	119	43%
おもちゃ・ぬいぐるみ	7	7	94%	104	86	83%
食器・その他日用品	63	128	203%	1,428	1,189	83%
合計	150	199	133%	3,581	2,500	70%

くるくるBOX(衣類・本のみ)からの持ち込み分、前回繰り越し分は計量していないため、持ち帰り量が持ち込み量を上回っている品目がある。

第1回から第3回までのリユースの実績グラフ



(2) リユース事業者への引渡し状況

「衣類・服飾雑貨」「バッグ・靴」「本」については、本事業において連携したリユース事業者に引き渡しを行なった。

引き渡した量の約7割を「衣類」が占めた。「本」については、イベント内での持ち帰りが多かったため、あまり多くの量を引き渡すことはできなかった。

引取り後の再商品化の状況についてリユース事業者にヒアリングを行ったところ、「服飾雑貨・バッグ・靴・ぬいぐるみ」は全量がリユースされたが、「衣類」の一部及び「本」はリユースすることができず、廃棄・リサイクルされたことがわかった。

リユース事業者への引き渡し状況

	衣類・服飾雑貨	バッグ・靴 ぬいぐるみ	本	合計
引渡し量	651.9	146.7	150	948.6
商品化量	628.2	146.7	0	774.9
廃棄・リサイクル量	23.7	0	150	173.7

廃棄・リサイクルに回ったものは、衣類・本のみ。

3.2 来場者アンケートの結果

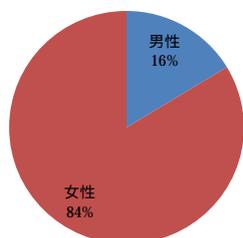
持ち込み回答者数：379 人

持ち帰りアンケート回答者数：395 人

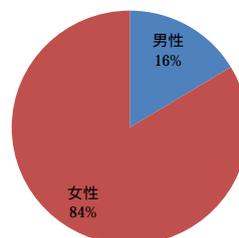
(1) 来場者の性別・年代・家族構成

来場者の属性をみると、持ち込み、持ち帰りのいずれにおいても女性、年代では 40 代以上、家族構成は子どもありの世帯の利用が多かった。

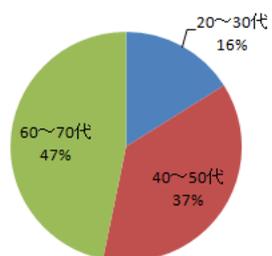
来場者の性別（持ち込み）(N=379)



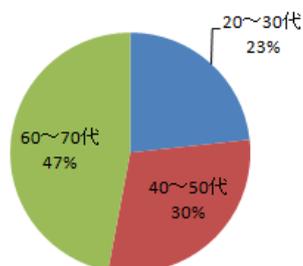
来場者の性別（持ち込み）(N=395)



来場者の年代（持ち込み）(N=374)



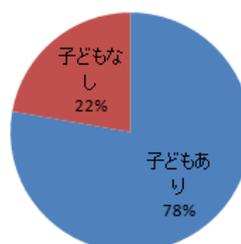
来場者の年代（持ち帰り）(N=391)



来場者の家族構成（持ち込み）(N=234)



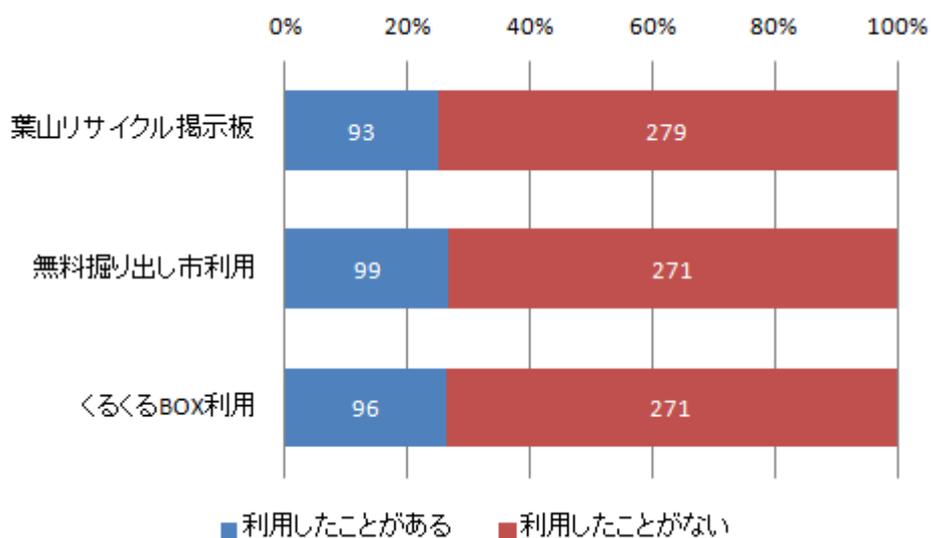
来場者の家族構成（持ち帰り）(N=243)



(2) 町内におけるリユースの取組みの過去の利用経験

町内で実施されているリユースの取組み「葉山リサイクル掲示板」「無料掘り出し市」「くるくるBOX」の利用経験を聞いたところ、いずれも「利用経験あり」の回答は40%以下であり、今回のイベントで新たにリユースの取組みに参加した人が多かった。

町の事業として行なっている「葉山リサイクル掲示板」については、年に4回以上「広報はやま」に紹介記事を掲載しているが、取組みに対する認知度は向上の余地があることもわかった。



(参考)

無料掘り出し市：市民団体「ゼロ・ウェイストを考え、進める会」が開催している不用品交換のイベント。時間内に自由に持ち込み、持ち帰りができるイベントだが、原則持ち込んだ人が持ち帰るシステムとなっている。持ち帰りたくない場合には、有料(100円)で主催者が引き取り、その中でも、引き取り手が見付かりそうな良い品は、次回開催まで主催者が保管している。

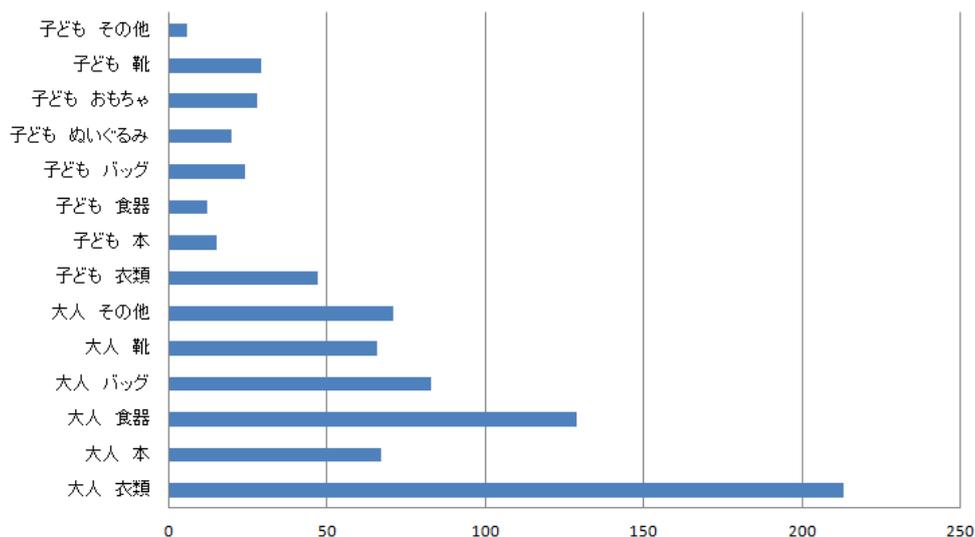
くるくるBOX：葉山町環境課が募集したボランティアスタッフ「ごみへらし隊」が毎週土曜日午前中に実施している古紙などの資源物の拠点回収と同時に行っている不用品交換スペース。当日残ったものは、ボランティアの担当者が仕分けしてBOX 1個に収まる程度の量にし、次週に持ち越す形式で運営している。

(3) 品目別持ち込み・持ち帰り点数

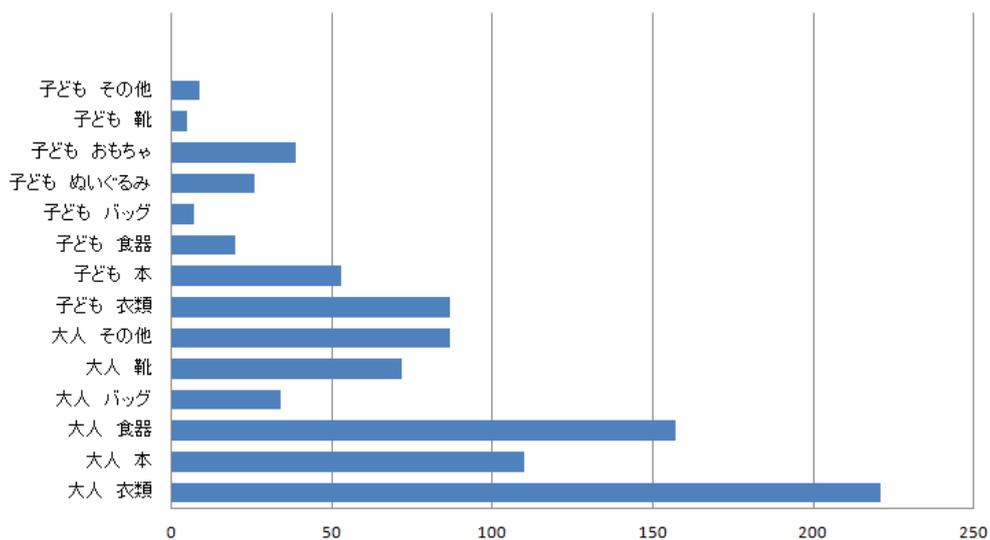
持ち込み品目は、大人向けの衣類、食器、バッグ等が多かった。子供向けでは、おもちゃ、靴などが多かった。

持ち帰り品目については、大人向け衣類、食器等、子ども向け衣類、本等が多かった。

品目別持ち込み点数



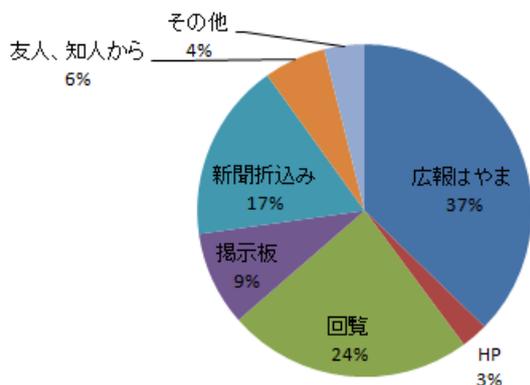
品目別持ち帰り点数



(4) くるくる市を知ったきっかけ *複数回答可

「広報はやま」が37%と最も多く、次いで「回覧」が24%、「新聞折込み」が17%と続いた。「友人、知人から」が6%あり、短い期間にもかかわらず口コミで広がっていたことがわかる。

イベントを知ったきっかけ (N=553)



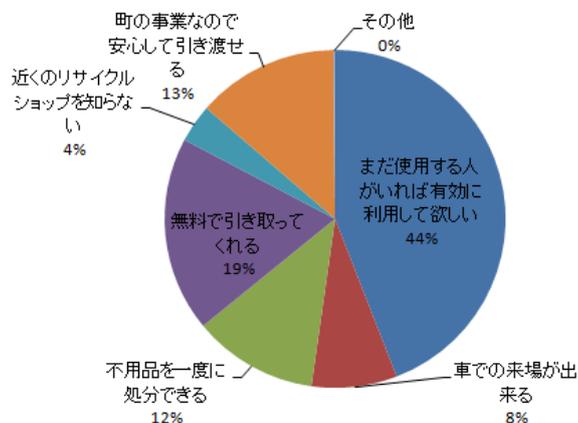
(5) くるくる市を利用した理由 (持ち込み・持ち帰り) 複数回答可

持ち込み者がくるくる市を利用した理由は、「まだ使用する人がいれば有効に利用して欲しい」が44%と最も多かった。

また、「不用品を一度に処分できる」が12%、「無料で引き取ってくれる」が19%あり、片付けを行ったときの不用品の処分方法としての支持も高いことがわかった。

「町の事業なので安心して引き渡せる」も13%あり、市民、事業者と町が連携した効果が表れている。

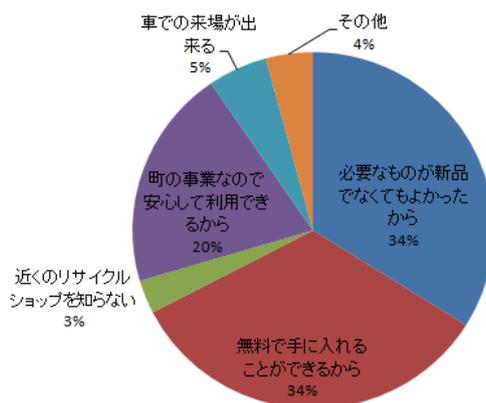
くるくる市を利用した理由 (持ち込み) (N=743)



持ち帰り者がくるくる市を利用した理由は、「必要なものが新品でなくてもよかったから」「無料で手に入れることができるから」がそれぞれ 34%と最も多かった。

また、「町の事業なので安心して利用できるから」も 20%と高く、持ち込みの場合と同様に市民、事業者と町が連携した効果が表れている。

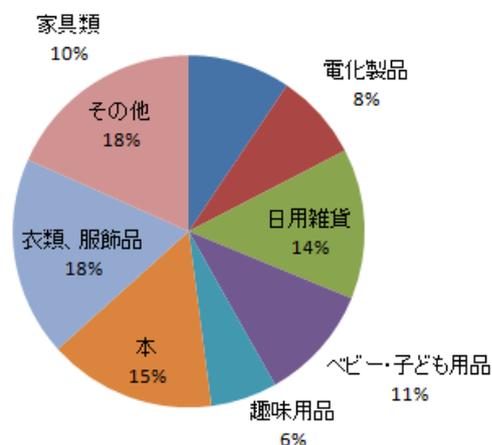
くるくる市を利用した理由（持ち帰り）(N=690)



(6) リユース品として出したいもの・入手したいもの 複数回答可

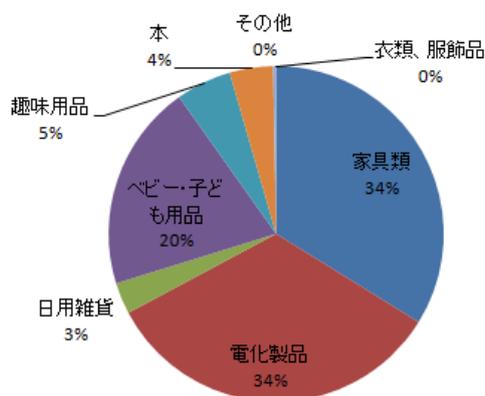
持ち込み者に対して、リユース品として出したいものを尋ねたところ、「日用雑貨」「本」「衣類・服飾品」などが多かった。

リユース品として出したいもの（持ち込み者対象）(N=753)



持ち帰り者に対してリユース品として入手したいものを尋ねたところ、「家具類」「電化製品」「ベビー・子ども用品」が多かった。「家具」や「電化製品」は比較的高額な品物であること、「ベビー・子ども用品」については使用期限が限られていることなどが理由として考えられる。

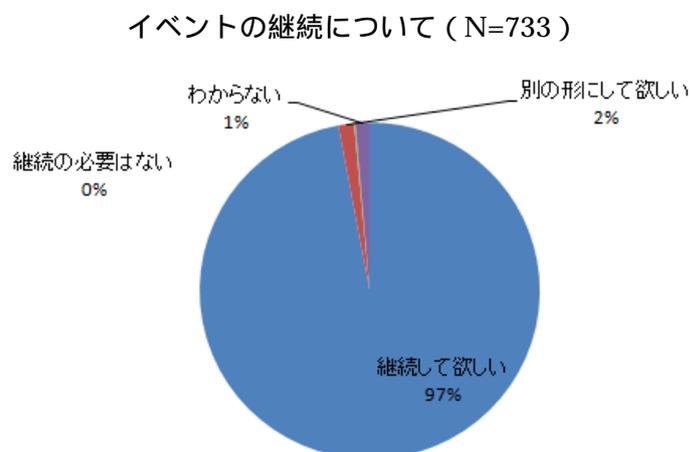
リユース品として入手したいもの（持ち帰り者対象）(N=692)



(6)(7)の回答結果より、「リユース品として出したいもの」と「リユース品としてあったら良いと思うもの」は必ずしも一致しないことが分かった。しかし一般町民アンケートにおける退藏品（処分せずに自宅に保管している不用品）は「リユース品としてあったら良いと思うもの」と一致した。それぞれのニーズが一致するような仕組みを発展させていく必要もあると考えられる。

(7) イベントの継続について

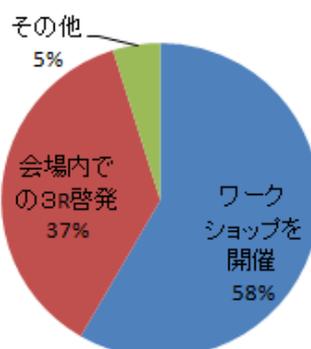
今後のイベントの継続については、「継続して欲しい」が97%と大半を占めた。



(8) 事業内容に期待すること *複数回答可

くるくる市に期待することとしては、「ワークショップを開催」が58%と最も多かった。

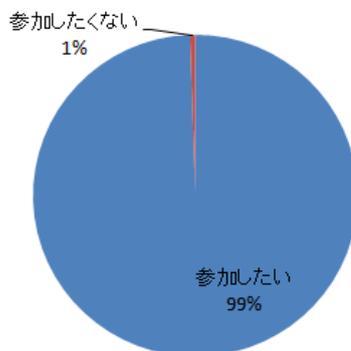
事業内容に期待すること (N=497)



*ワークショップ：余った布でバッグ・靴下作りのワークショップなど

(9) 今後の参加意向

今後の参加意向 (N=379)



3.3 持ち帰り者追跡アンケートの結果

持ち帰りの利用者のうち、持ち帰り者用アンケートにおいて追跡調査への協力に同意した方に対して持ち帰り者追跡アンケートを実施した。

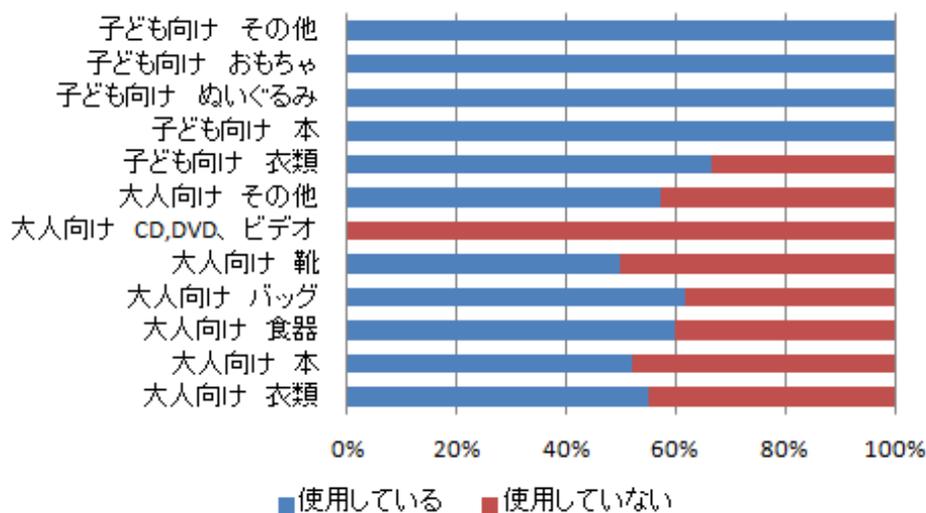
持ち帰りアンケート対象：44件 回答数：38件

(1) 持ち帰った物の現在の使用状況

イベントから持ち帰ったものの使用状況について尋ねたところ、子供向けのおもちゃ、ぬいぐるみ、本は「使用している」が100%であった。

子供向けの衣類、大人向けの靴、バッグ、食器、本、衣類は約半数が「使用している」と回答した。

大人向けのCD、DVD、ビデオは「使用していない」が100%であった。

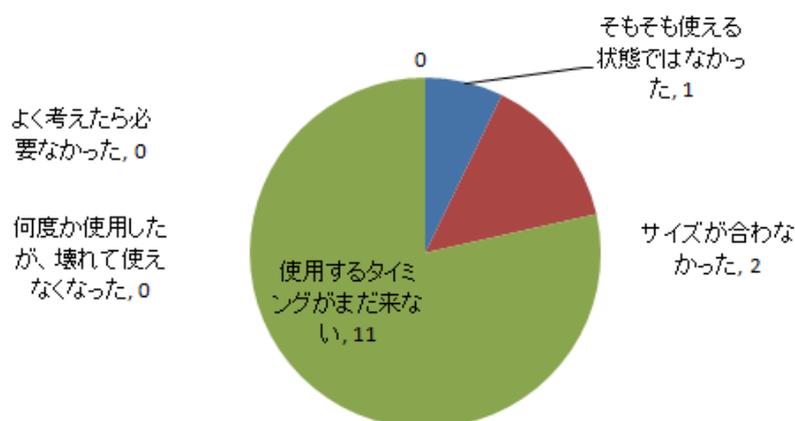


(2) 使用していない理由

(1)において「使用していない」と回答した品物についてその理由を尋ねたところ、「使用するタイミングがまだ来ない」が11件と最も多く、「夏になってから使う」などの季節性の理由や、「子どもが大きくなったら使用する」などの理由が挙げられた。

「そもそも使える状態ではなかった」も1件あり、リユースできない不用品が含まれていたことがわかった。

使用していない理由 (N=14)



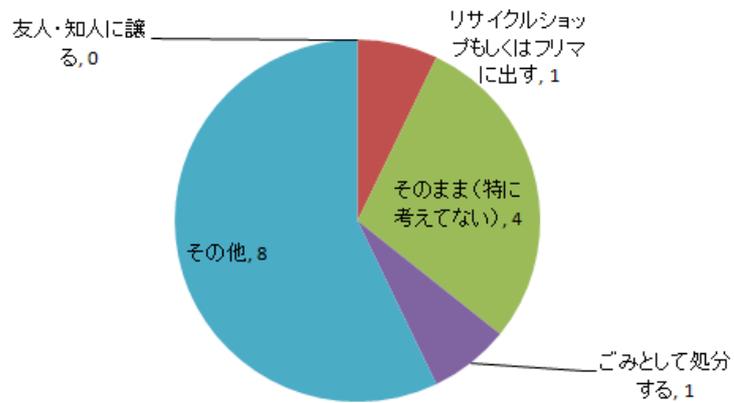
(3) 使用していない物の今後の取り扱い

使用していない物の今後の取り扱いを尋ねたところ、「そのまま(特に考えていない)」が4件と多かった。

また、最も多かった「その他」の回答としては、「衣類を靴下などにリメイクした」「翌月のくるくる市へ出品した」「次回のくるくる市へ出品する」であり、「リサイクルショップもしくはフリマに出す」と合わせて多くが再びリユースする意向であることがわかった。

「ごみとして処分する」は1件であった。

使用していない物の今後の取り扱い (N=14)



3.4 一般町民向けアンケート

一般町民を対象に、無作為抽出のアンケートを実施し、くるくる市及びリユースに対する認知度・意識状況を把握した。

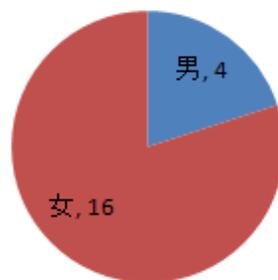
アンケート送付数：100名

回答数：20名

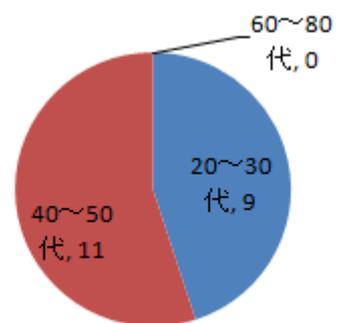
(1) 回答者の性別・年代

回答者の属性を以下に示す。

回答者の性別 (N=20)



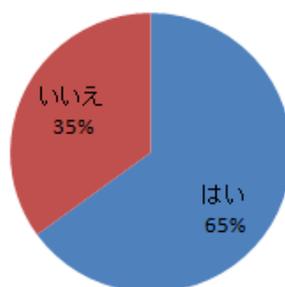
回答者の年代 (N=20)



(2) “くるくる市”の認知度

くるくる市の認知度を尋ねたところ「はい」が65%であり、半数以上の人を知っていた。

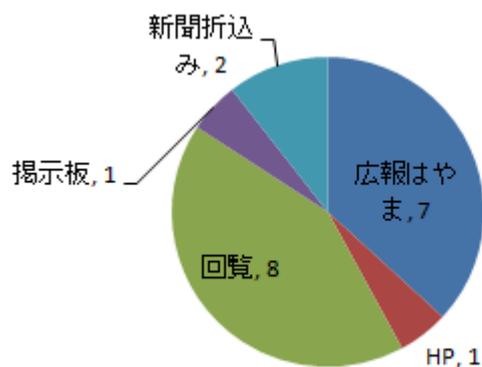
くるくる市の認知度 (N=20)



(3) “くるくる市”を知ったきっかけ

くるくる市を知っていると回答した方に、知ったきっかけを尋ねたところ、くるくる市の参加者と同様に、「広報はやま」「回覧」の回答が多数を占めた。

くるくる市を知ったきっかけ (N=19)



(4) リユースという形で不用品を処分した経験の有無

「ある」 = 15人

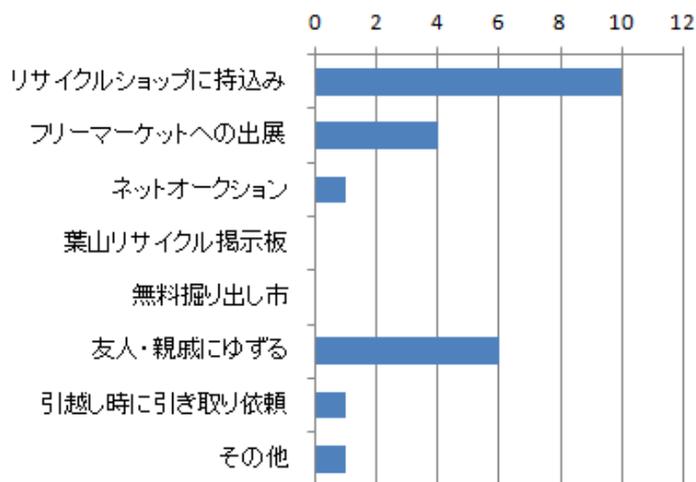
「ない」 = 5人

「ある」と答えた方の具体的なリユース方法 複数回答可

リユースをしたことがあると回答した方にその具体的な方法を尋ねたところ、「リサ

「リサイクルショップに持ち込み」が 10 件と最も多く、次いで「友人・親戚にゆずる」が 6 件であった。

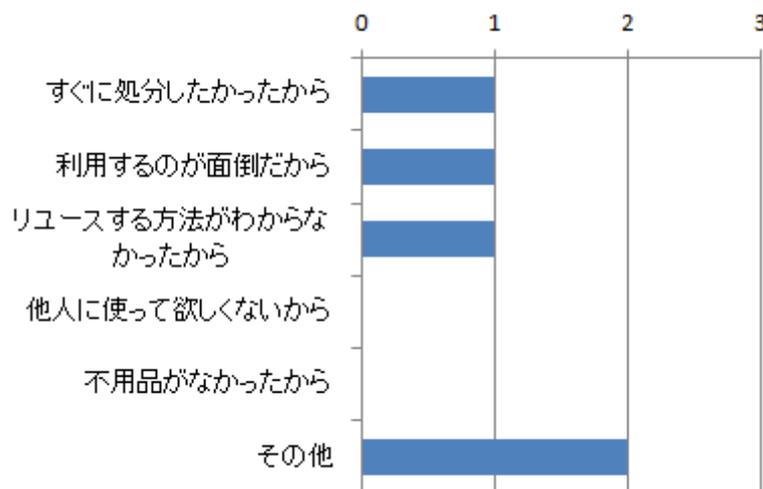
利用したことのあるリユース (N=23)



「ない」と答えた方の理由 複数回答可

リユースをしたことがない人の理由は、「すぐに処分したかったから」「利用するのが面倒だから」「リユースする方法がわからなかったから」がそれぞれ 1 件であった。

リユースを利用しない理由 (N=5)



(5) リユースという形で不用品を購入 (ゆずってもらう等) した経験の有無

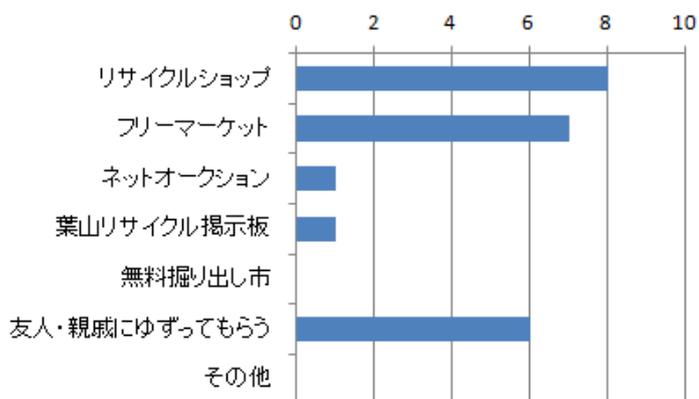
「ある」 = 14 人

「ない」 = 6 人

「ある」と答えた方の具体的なリユース方法 複数回答可

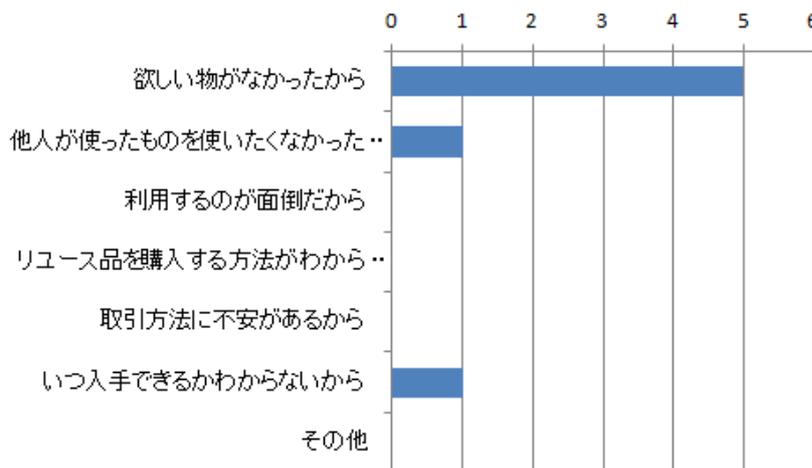
リユースの方法としては、「リサイクルショップ」「フリーマーケット」の回答が多かった。

具体的なリユース方法 (N=23)



「いいえ」と答えた方のリユースしない理由 複数回答可

リユースという形で不用品を購入（ゆずってもらう等）した経験がない理由を尋ねたところ、「欲しいものがなかったから」が最も多かった。



(6) 現在、自宅に処分せずに保管している不用品（使用済または未使用）の有無

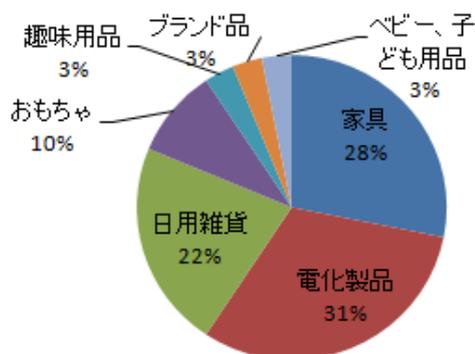
「ある」 = 19人

「ない」 = 0人

「ある」と答えた場合の具体的な品目

「電化製品」が31%と最も多く、次いで「家具類」が28%、「日用雑貨」が22%となった。これは、来場者アンケートにおける「リユース品としてあったら良いと思うもの」と同じ傾向であり、処分せずに保管している不用品を各家庭からリユースに提供するきっかけを増やすことで、リユースを促進できる可能性があると考えられる。

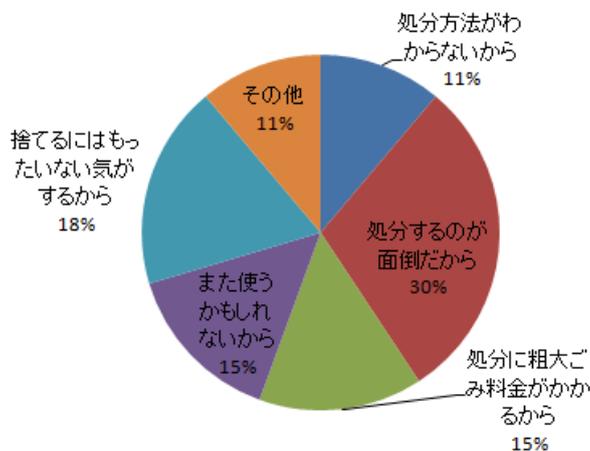
自宅に保管している不用品 (N=32)



「ある」と答えた方の不用品を処分しない理由は

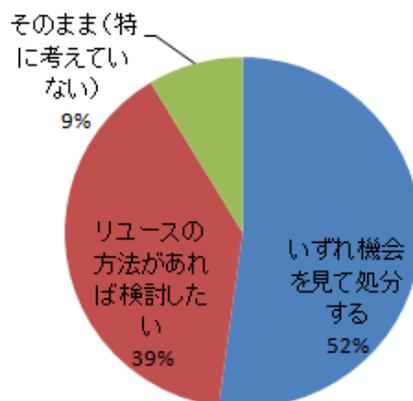
処分しない理由としては、「処分するのが面倒だから」が30%で最も多かった。その他「処分に粗大ごみ料金がかかるから」が15%、「処分方法が分からないから」が11%となり、処分に手間・費用がかかることが、「また使うかもしれないから」「捨てるにはもったいない気がするから」という今後の利用可能性による理由を上回った。

自宅に保管している不用品 (N=27)



「ある」と答えた方の今後の取り扱い意向

「いずれ機会を見て処分する」が全体の半分以上を占めた。次いで「リユース方法があれば検討したい」が 39%となった。の結果を踏まえると、“処分”するよりも簡単に“リユース”する方法を提案できれば、家具や電化製品についてもより多くのリユースが期待できると考えられる。



3.5 リユース事業者へのヒアリング結果

連携したリユース事業者に対して、引取りを行なった不用品の品質、量及び本事業の採算性についてヒアリングを行った。

(1) 品質・量について

品目	品質 (5段階評価)	量 (5段階評価)	意見
衣類	2 (やや不満)	2 (やや不満)	2 (やや不満)としたが、来場者の持ち帰り後には、国内リユース出来るものがある。また、廃棄となるものも少なく国外でのリユースが可能。
服飾雑貨	2 (やや不満)	3 (普通)	特になし。
靴・バッグ	3 (普通)	4 (やや満足)	靴は未使用品に近い物もある。靴・バッグともに廃棄となるものが少なく、国内リユース品以外の大半が国外リユースする事が可能。
ぬいぐるみ	2 (やや不満)	3 (普通)	キャラクターものがもっとあると良い。
本	1 (不満)	1 (不満)	店頭に並んでいる商品と比べると、全て質が悪いため、廃棄となる。
CD・DVD ・ビデオ	1 (不満)	1 (不満)	特になし。

(2) 本事業における採算性について

「衣類」「服飾雑貨」「靴・バッグ」「ぬいぐるみ」を扱った業者

支出	32,100 円
収入	41,200 円

「本」「CD・DVD」「ビデオ」を扱った業者

支出	8,200 円
収入	0 円

本は協力事業者よりリサイクルとして全量を古紙業者へ無料で引き渡した。

(3) 本事業に対する評価

- ・「衣類」「服飾雑貨」「靴・バッグ」「ぬいぐるみ」を扱った業者
「良かった」

事業内容として、非常に良い取り組み。持ち出しがあつての取り組み協力は難しいが、今回のように輸送コスト負担のみならば、コスト面で大きな問題はない。

- ・「本」「CD・DVD」「ビデオ」を扱った業者
「どちらでもない」

商品売上利益を求めたものではなかったもので、事業協力できて良かった。また、広告宣伝できたという部分で、利益は存在すると考える。リユースすることで、廃棄物を減らそうとする取り組みは非常に良い。

(4) 今後の連携・展開について（連携するにあたり、改善点など）

- ・「衣類」「服飾雑貨」「靴・バッグ」「ぬいぐるみ」を扱った業者
「連携したい」

現状のまままで問題なし。（案）として、持ち込みした方に何かインセンティブを設けることで、事業の促進・拡張に繋がられるのではないかと。

- ・「本」「CD・DVD」「ビデオ」を扱った業者
「どちらでもない」

3.6 モデル事業にかかる経費及び人員

< 経費 >

項目	支出	
	金額（円）	備考
チラシ作成	469,748	2回作成
チラシ配布	178,290	2回配布
消耗品購入	32,225	（内訳） 計量器、ハンガーなど
アンケート発送費用	0	町の郵送システム利用
アンケート回収費用	11,520	一般町民アンケート 100 通分 持ち帰り者追跡アンケート 44 通分
合計	691,783	

<人員>

	職員	ボランティア
第1回	5名	15名
第2回	6名	16名
第3回	6名	11名

3.7 モデル事業の成果・課題（まとめ）

（1）成果

<ごみの減量効果>

- ・ 多くの町民に、リユースをすることで「ごみを増やさない・出さない」という意識付けが出来た。

<事業者と連携が出来た>

- ・ 従来から実施しているイベントの「無料掘り出し市」における課題として、「イベント終了後のスタッフの負担」が挙がっていたが、事業者に審査・引取りしてもらうことで、その負担を大きく減らすことができた。
- ・ 一部の事業者が行政との連携に関心を持っており、今後の連携のための関係構築ができた。
- ・ リユース市場の現状を知ることができ、引取り後にリユースされやすいもの・されにくいものを把握することができた。

<今後の参考になった>

- ・ リユース（再使用することでごみを出さない・増やさないこと）に多くの町民の方が賛同してくれていること（ニーズがあること）が分かった。
「ごみ減量」などに興味が無い人でも「もったいない」という気持ちを持っている人が多くいる。そこからアプローチしていくことで、ごみ減量施策につなげられるということが分かった。（会場内で3Rの推進啓発を実施するチャンス）
- ・ このようなイベント内容・形式であれば、ボランティアスタッフが集まりやすいということが分かった。
当日のボランティアスタッフ数：計42名（第1～3回延べ）
- ・ アンケート結果から、従来のリユース形式（リサイクル掲示板・くるくるBOX・無料掘り出し市）の認知度が低いことが分かり、広報が重要であることが分かった。
- ・ イベント開催するための最適な場所が分かった。
車での来場者が多いため、駐車場が確保できる場所であること。葉山町内の公共交通手段はバスのみであるため、バスの本数が多く出ている場所であること。備品・

終了後の品の保管場所として役場を利用するため、役場付近であるとスタッフの負担が減るということ。

- ・ 「持ち込み禁止品」を持ち込んでしまった場合に「リサイクル掲示板」を案内することができて良かった。
せっかく持込んだものをただ持ち帰るだけでなく、リサイクル掲示板に登録することが出来て良かったとのこと。

(2) 課題

- ・ リユース品にならずに廃棄になるものを減らすために、「事前の周知方法」「受付における審査」を徹底すべき。

今回は受付審査におけるスタッフマニュアル・事前の打ち合わせなどを行なったが、それでも廃棄に回るものが少なからず出た。今後は受付では計量せず、審査のみを実施することで厳しいチェックにするなど。事前の周知方法についても、工夫する必要がある。

- ・ リユース事業者にも引き取ってもらえなかった品についての取り扱い。
「食器」「その他日用品」は今回どこの業者にも引き取ってもらうことが出来なかった。また、残った品を見ると、景品・記念でもらったものが多く、箱にも入っていない。食器を扱っている事業者へヒアリングを行なったところ、箱入り・お店で購入したようなものでないと商品化は難しいとのことだった。しかし、食器はイベント内での持ち込み・持ち帰り量ともに大きかったためリユース率が高い。毎回保管するための場所も必要となってくる。
“食器・日用品持ち帰りのみ”の日を設け、食器・日用品リユースのみ促すなど。
- ・ 全て廃棄（リサイクル）に回ったリユース品「本」の取り扱い。
今回の結果から、町民同士のリユース後にはリユース事業者で取り扱えるような品質のものが残らないことが分かった。今後は、リユース事業者ではなく、リサイクル事業者と連携することも考える必要がある。

(3) 今後の予定

- ・ 年2~3回、イベント形式で行なう。
第3回は前日の天候（大雪）の影響もあったと考えられるが、事前準備の量などを考慮すると、月に1度は多い。
- ・ 本事業により関係構築できた事業者と今後も連携していく。
- ・ 本事業の結果を踏まえ、リユースの取り組みを推進する。

(以上)